SPSS Ver28 コミュータライセンス手順（Mac）

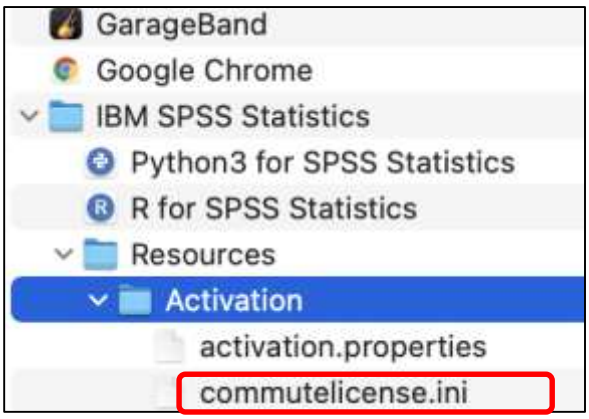
1．初期設定（学外利用の最大可能日数の変更）

学外利用時の最大可能日数を予め既定値の7日から30日に変更しておく

①ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝの「IBM SPSS Statistics 」-「Resources」-[Activation]フォルダにあるcommutelicense.ini をテキストエディットで開く

② CommuterMaxLifeの値を7から30に書き換えて保存

【注意】・最大可能日数の変更は一度行うと30日で保持される
・30日を超える設定は無効
・commutelicense.iniの他の設定は変更しないこと




```
[Commuter]
DaemonHost=133.92.2.49
Organization=IBM
CommuterMaxLife=7
[Product]
VersionMajor=28
VersionMinor=0
```

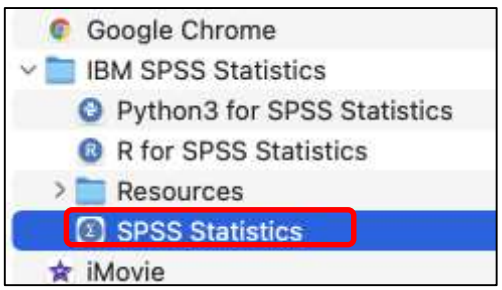
2．学外利用手続き

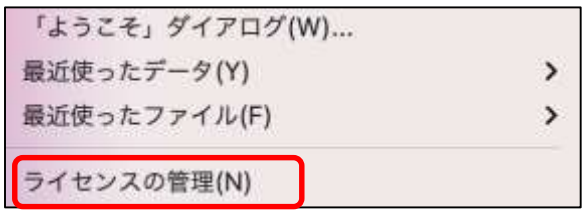
Macが学内ネットワークに接続された状態で行う

①ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝの「IBM SPSS Statistics 」-「 SPSS Statistics 」を起動

②SPSSの「ファイル」メニューの「ライセンス管理」を選択

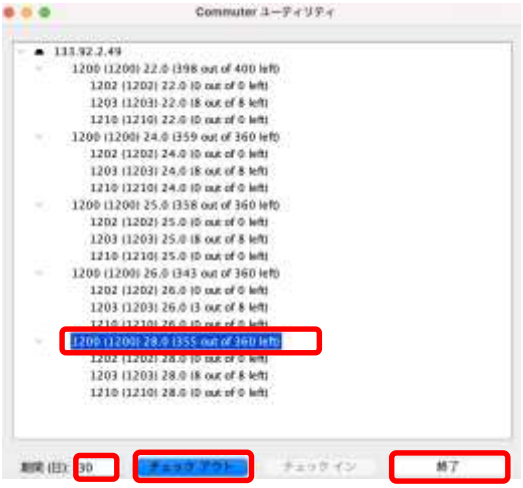
③ライセンス管理で「Commuterユーティリティツールの起動」を選択







④「 IBM SPSS Statistics 1200 28.0」モジュールを選択して（学外利用）期間（1～30日）を入力後
「チェックアウト」を選択、期間の初期値は3日で利用期間に応じ最大30日まで変更が可能
学外利用が可能になると赤いﾁｪｯｸﾏｰｸが付くので「終了」を選択
⑤「Advanced Statistics 」モジュールを学外利用する場合は同様に行う
学外利用数が上限に達するとエラーコード77になり学外利用手続きはできない
⑥IBM SPSS Statisticsの再起動で「再起動」を選択することで学外利用が適用される
【注意】学外利用手続き後は学内で利用する場合も利用できるモジュールが学外利用手続きの範囲に制限される
学内で全てのモジュールを使用したい場合は3．学外利用の解除を 実施する





3．学外利用の解除

学外利用期間内に利用が終了した場合はMacを学内ネットワークに接続し
「ﾁｪｯｸｲﾝ」を行うことで学外利用が解除される
学外利用期間が過ぎた場合は自動的に解除されるため操作は不要
①ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝの「IBM SPSS Statistics 」-「 SPSS Statistics 」を起動し、SPSSの[ファイル]メニューから
「ライセンス管理」を選択、ライセンス管理で「Commuterユーティリティツールの起動」を選択
②「IBM SPSS Statistics 1200 28.0」を選択後「チェックイン」を選択
赤いﾁｪｯｸﾏｰｸが消えたのを確認し「終了」を選択
③「Advanced Statistics」モジュールを学外利用していた場合は同様に行う
④ IBM SPSS Statisticsの再起動で「再起動」を選択することで学外利用が解除される

